

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所独自の理念に添ってサービスを行っている 「みんなでたすけあい 安心のある暮らし」 1.元気でおいしいものを食べて明るく楽しく暮らしたい 2.「私」を大切にしたい 3.「私」らしく生きたい 4.家族、地域とのふれあいを大切にしたい	○	・外部からの講師の指導のもと、職員全員で作り上げた4つのケアのモットーに添って、利用者を中心としたケアに取り組んでいきたい
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎朝の朝礼の終わりに職員同士で読み上げて理念を確認し、毎日のケアに取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・玄関を入ってすぐのところに掲示し、目につきやすくなっている。ホームだよりや運営推進会議などの場を活用し、家族や地域の方々へも折にふれ、話をするようにしている		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩や顔を合わせた時などに挨拶を始めとして気軽に声をかけあい、また、時には近くの保育園児が立ち寄るなどの付き合いができています		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会へ加入しており、地域の行事等は回覧板等で確認して利用者も含めて可能な範囲で参加をしている。また行事によってはホームに立ち寄ってもらったり、近くの保育園などとも互いに交流、参加をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域の行事等へ参加することにより、地域の方々へホームへの理解を深めてもらうよう努めている。町内会に対しても運営推進会議を通じて、非常災害時の避難場所や色々なことに対する相談窓口、また勉強会の場などにも活用してもらうよう進言もしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・全職員が外部評価に合わせてそれぞれ自己評価に取り組み、お互いが意見等を出し合っている。また、結果を受けての改善点においても、その取り組みにかかる時間等も検討しながら、協力し合っている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヵ月に一度の運営推進会議においてはホームでの取り組みや内容等を報告すると共に参加者から意見をもらい、サービスの向上に役立っている。また、会議以外でもホームの行事の案内をして参加を呼びかけ、ホームの実際を見てもらっている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・地域包括支援センターや市町村の担当者、部署と互いに連絡を取り合い、ホームの状況を報告しながら、様々な情報収集を行っている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・資料等をもらって目を通し、ある程度は学んできているものの、現時点においては活用例がないこともあり、それ以上深く学べていない	○	・今後は実際に必要とされるケースが出てくることも十分考えられるため、より細かいところまで深く学ぶようにしていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待に関する研修等に参加するとともに、職員会議等でも互いの言動等を確認することにより、虐待防止に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・できる限り契約書や重要事項説明書などに事前に目を通してもらい内容を確認することにより、契約、説明の際には家族が知りたいこと、気になることを尋ねられるように配慮している	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者からの改まった訴えだけでなく、普段の何気ない会話や表情、態度からもその思いを探るように気をつけている。また周囲からの間接的な訴えや、介護相談員等へ訴えのあったことも、きちんと聞いて検討している	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族の面会時には利用者の最近の状況を説明し、また、毎月発行のホームだよりの中でホーム全体や利用者個人の様子を知らせている。金銭管理においても、毎月の残高報告や定期的な明細報告をしている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・普段から家族等とコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気を作りながら、何気ない会話の中で出た意見を拾い上げるように努力している	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月一回の職員会議を始めとした各種の会議の中で、職員に投げかけて意見等をもらうようにしているほか、普段の会話の中で出たことにも注意を向けるようにしている	○ ・まだまだ言いたいこと、言えないこと等があるとは思うので、もっと言える場、聞く機会を増やしたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・毎日必要な人数を確保しているだけでなく、ホームの行事の時や職員の急な休みの時などにも対応できるようにして。また、状況に応じて、管理者等の通常のシフトに入らない職員が対応できるようにもしてある	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・利用者が職員と馴染みの関係を作れるように、職員はある程度それぞれのユニットに固定されている。ただ定期的な職員の異動を行っているため、普段から行き来をすることで顔なじみになり、馴染みの関係を作りやすいようにしている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・ホーム内において、認知症ケアに対する基本的な考え方や技術など、質の向上を図るための定期的に勉強する機会を作っている。事業所外での研修も職員に掲示して、希望に応じて参加できるようにしている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県のグループホーム協議会に加入してその研修会等へ参加し、また、他のグループホームの勉強会等への参加や、他ホームからの受け入れをすることにより、互いに交流を図っている。同地区内でのグループホーム間のネットワークができつつあり、定期的に会合へも参加している	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・日中、休憩時間などに職員同士がコミュニケーションを図れるようにしている。また定期的に親睦会も開き、気分転換できるようにしている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職員の能力等に合わせた役割があり、また職員からの意見も取り入れているなどを行っている。資格取得等の要望に応じ、支援していく体制を作っている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居までの間にできるだけ本人とも面談を行い、話を聞くことにより、本人の状態や思いといったものを少しでも引き出せるように努力している	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・最初の相談の時から、まず家族の話をよく聞き、家族の思いを受け止めることから始めている。その上で相談に乗ったりアドバイスをしたりするようにしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けて全体的な状況を見極め、ホームの状況に応じて入居等の支援を行い、場合によっては他の事業所等をすすめたりもしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人及び家族に見学してもらってホームの雰囲気などを知らせてもらうことから始め、状況によっては日中や宿泊の体験をしてもらうことにより、馴染んでいけるように工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人の話を聞いて本人の気持ちに寄り添いながら、好きなことや得意なことを見つけ、その能力を發揮できる場を作るようにしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・利用者の様子をこまめに家族へ伝え、家族の本人に対する思いを受け入れて、一緒に支えていくためにお互い協力し合いながら支援している		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面会時に本人の普段の状態を伝えることでスムーズな関係が作れるように支援する一方で、ホームの行事への参加をすすめ、一緒に過ごす時間を作ることによってよりよい関係が続けられるように支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・電話や手紙などで今までのつながりを大切にし、面会等も可能な限り自由にできるようにしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒になって会話を楽しみながら利用者の同士様子に気を配り、お互いが穏やかに過ごせるよう、間に立つ努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・契約終了後であっても気軽に声掛けを行い、本人や家族が訪ねてきやすい雰囲気を作っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・会話などの毎日の係わりの中で本人の様子をよく観察し、本人の思いや意向などを確認できるように努力している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人や家族と繰り返し話をする中で少しずつ聞き取りを行い、時間をかけて把握するように努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・本人の訴えや表情、動きを見ながら、毎日の生活パターンを理解し、できることできないことに注目して利用者一人ひとりについて知るよう努力している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人の状態を把握し、本人の思いや家族の意向を踏まえたうえでユニット会議やカンファレンスを行い、意見を出し合って介護計画の作成に取り組んでいる		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・計画作成の際の期間に合わせて定期的に見直しを行っているほか、利用者の状態変化が大きい場合は、現状にあった計画になるようカンファレンスを行い、新しく作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・各利用者毎に個人のケア記録を作成し、毎日記録をとることで職員同士で情報を共有している。また、重要なことは他の職員に申し送りを行い、同時に申し送りノートを活用して全職員に伝えられるように努力している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人や家族の要望を聞き、病院受診や買い物、外出といった支援を状況に合わせて行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域に対してボランティアの募集をしたり民生委員の方に運営推進会議への協力をもらったりしている。また消防による防災訓練なども実施している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・本人の希望に応じ、外部の利用サービスを利用している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・普段から連絡を取り合い、また運営推進会議においてもいろいろな情報交換を行っている。今後、権利擁護等必要なケースも考えられるため、さらに密な連携をとっていきたい		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ホームの協力医について話をしたうえで、本人や家族の希望に応じて、今までのかかりつけ医や協力医を受診できるように支援している。その他の医療機関についても希望よりスムーズに受診できるよう、状況に応じた対応をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・ホームの協力医は専門医ではないものの、互いに相談しあい、また他のホームとも連携をとって認知症に対する勉強を重ねている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・日常生活の中での体調の変化など気がついた点を相談し、アドバイスを受けながら、お互いに適切な支援が行えるように協力し合っている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・病院や家族と連絡をとって利用者の状態や家族の意向等を確認し、利用者にとって一番よい方法を模索しながら、早期退院へ向けて連携をとっている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・ホームとして重度化に対する対応や方針を決め、その方針に基づいて協力医、家族を交えた話し合いを行っている	○	・全体に行き渡るように繰り返し話し合いを行い、情報等が共有できるように努めていきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・現時点において看取りを行うことは難しいが、重度化に対するホームの方針と家族の意向を踏まえ、事業所で「できること」をチームとして支援していけるよう、取り組んでいる	○	・チームとして意識の統一を図るため、今後も話し合い等を重ねていく必要がある
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・家族との話し合いの中で、本人や家族にとって一番よい方法を検討し、利用者の状況に応じて現在の状態や現在までの経過、その他必要な情報提供を行うことにより、住み替えがあってもそれまで同様の生活ができるようにしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・一人ひとりを大切に尊敬の念を持ち、周囲に対する配慮や利用者個人の自尊心を傷つけないような声掛けや対応の仕方を心がけている	○ ・食堂や廊下などの共用の場は勿論のこと、利用者の居室においても声の大きさや声掛けの仕方など、さらに徹底していく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・職員が勝手に決めてしまったり無理強いすることのないよう、本人に尋ねたり決めてもらったりしている。意思表示の難しい方や理解に時間のかかる方など、本人の能力に合わせて分かりやすく説明するなどの対応をとっている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・基本となるホームの流れに沿いながらも、本人の気持ちやペースに合わせて、強制にならないように注意しながら個人に合わせたケアになるように支援している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・自分が着る服を本人に確認して決めてもらったり、レクの中での美顔マッサージや行事の際の化粧など、本人の希望に合わせて行っている。理・美容についても、ホームに来てもらったり店に行ったりしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食材の下ごしらえや食器の片付けなど、できる方には手伝いをもって一緒に行うようにもしている。また、お茶や食事については職員も利用者と一緒に席に着き、話をしながら楽しい時間になるように努めている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・家族からの差し入れや本人の希望で購入したものを、お茶の時間に内容や量に注意しながら、好きに食べられるようにしている	○ ・持病や家族からの要望によりあまり食べられない利用者に対しても配慮を行い、時にはホームで手作りしたものを量に気をつけて提供している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・声掛けや見守りによってスムーズに排泄ができるように支援しているほか、オムツやパットを使用されている方についても、日中はトイレ誘導をして極力パットを使用しないで済むようにもしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・ゆっくり入浴していただけるように入浴日を分け、また不公平感が出ないように入浴順も交替で入れるように設定してある。そのときの状況や本人の希望によって臨機応変に順序を交替し、夏場については入浴日以外にも希望に応じてシャワーを浴びられるようにしている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中はできるだけ起きて生活できるように勧めているが、一人ひとりの生活パターンに注意し、昼寝などの休息が取れるように支援し、本人に合ったペースで生活できている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者のできることに合わせた作業をお願いし、声を掛けながら一緒に行っている。レクリエーションや行事なども行い、楽しく過ごせるようにしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・いくらかのお金を持っている利用者があり、そのうちの何人かは本人の希望で買いたいものを購入されている。希望により預かり金の中からも買い物ができるように支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・季節に応じてドライブを計画し、出かけている。また、利用者の希望により、買い物や散髪などにも出かけられるように支援している	○	・希望で外出する利用者は決まってしまうっており、その他の利用者についても検討していく必要がある
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族との外出外泊の中で遠出をする利用者もあるが、なかなかホームから出かける機会の少ない方もいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・レクリエーションの一環として年賀状や暑中見舞いを作成している。また電話の希望にも応じ、自由にかけられるように支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間など特に定めず、都合のよい時間に訪問できるようになっている。また、訪問時には居室や食堂、和室などを活用し、ゆっくりと気兼ねなく過ごせるように支援している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・普段から身体拘束をしないケアに取り組んでおり、必要に応じて会議の場などで身体拘束に当たるかどうかの検討もしている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は玄関の鍵を掛けておらず、自由に入出入りできるようになっている。居室にも鍵がついているが、施錠については利用者に任せてあり、職員の都合で施錠することはない		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・記録や作業などは利用者や居室に目の届くところで行い、利用者の所在確認や動きに注意している。また、定期的に居室を回り、声掛けもしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・普段は倉庫や棚にしまっておき管理を行い、必要時に出し入れしている。利用者が使用する際には職員の見守りのもとで行っている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・利用者一人ひとりについてどのような事故が起きやすいかどうかを検討し、それ以外の点についても念頭に置きながら、見守りなどにて事故防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・毎年職員に内容についてのアンケートをとった上で協力医による医療講習会を行っている。また救命訓練等も定期的に行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回消防署の協力をもらい、避難方法や消火器の使い方といった防災に関する訓練等を行っている。また、災害時に備えた備蓄を行ったり、地域の方々への協力もお願いしている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・入居の際にまず起こり得る一般的なリスクについて話し、一人ひとりの状況に応じて説明をしている。ホームとして拘束や施錠をしていないこと、利用者の身体状況によって起こりやすいこと等を説明し、話し合いを行っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎朝のバイタルチェックを行って体調の変化に注意するとともに、普段から表情や動作について様子観察し、早めの発見に努めている。体調不良時には速やかに報告を行い、医師の指示を受けている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬に書いてある日付や名前と利用者の顔とを再三確認し、誤薬や飲み忘れのないよう、最後まで注意と確認を行っている	○	・薬の内容や効能、副作用などについての理解がまだまだ不十分であるため、誰でも分かりやすい一覧の整備を行っていききたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・水分補給や運動など、利用者に応じて声掛けを行い、また野菜ジュースや手作りのヨーグルトなどを取り入れるようにしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、必要な利用者には見守りや介助を行っている	○	・ある程度自立できている利用者や見守りなどの拒否がある利用者については、確認がなかなかできないため、今後工夫が必要

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者ごとの食事・水分摂取量はケア記録に毎日記録し、大体の量を把握している。特に水分量については普段から不足しやすいため、朝食時の牛乳やお茶の時に野菜ジュースなどを出すことにより、少しでも摂取量を増やせるように努力している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・積極的に予防接種を受けて感染予防に努め、感染症の流行時期には早めの対策を立てている。利用者、職員ともに普段から手指消毒を心がけ、玄関にも消毒液を設置して家族等にも消毒をお願いしている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・包丁やまな板は使用する前に熱湯消毒を行い、布巾等もこまめに洗濯をするなど、衛生面には注意している。食材についても賞味期限等を確認し、早めに使い切るよう心がけ、定期的に冷蔵庫内の点検も行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・敷地入口の門扉は開放しており、玄関周りにも季節の花を植えたプランターを置いたり表札を掛けるなど、出入りしやすい工夫をしている。玄関も施錠せず、自由に出入りできる		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎日の清掃を行い、外光もその時の射し込み具合によってカーテンを利用して調節するなど、清潔で明るい室内を心がけている。壁面には利用者の作品や写真、季節のものなどを飾っている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食堂のテーブル以外にもソファを置き、また廊下の奥にもソファを置くなどして、独りで又は他の利用者と一緒に好きなように過ごせる場所がある		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室に備えてあるダンスとベッドのほか、本人が使い慣れた椅子や棚など希望に応じて設置し、本人や家族の写真なども飾ってある		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・掃除の時には窓を開けて換気を行い、窓を開けたがらない利用者についても、食事時など自室を離れた時に開けるなど、本人の負担にならないように注意して行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内は基本的に段差のないバリアフリーになっており、手すりを設置してあることによって移動しやすい環境を作っている。また、利用者の状況に合わせてギャッジベッドやポータブルトイレを使用して、安心して生活できるようにしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・利用者一人ひとりに合わせて表札のほかに名前を大きく表示したりトイレの入口を大きく表示したりして、迷うことなく過ごせるように工夫している。また、利用者によっては食事の時間や入浴日などを書いて居室に貼り、見て分かるようにしてある		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・建物からウッドデッキ、庭へと自由に出入りできるようになっており、好きな時に散歩をされている。途中にはベンチを置いて休憩でき、花や畑などをゆっくりと眺めることができる		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

静かで明るく、開放的な環境の中でゆっくりとした時間の流れの中でのケアを目指し、また鍵をかけないケア・拘束のないケアに取り組んでいます。毎日の遊学(レクリエーション)や日曜の遊学をはじめとしてドライブや外食などの外出行事、家族参加型の食事会といった行事にも力を入れています。ホームの理念をもとに、利用者を中心とした個別ケアを心がけ、職員も様々な研修等に参加してレベルアップを図り、利用者と家族が安心して暮らせるように支援しています。